

1 むらづくりの主体

(1) 名称 みなみ やま せいさんくみあい
南 アルプス山ぶどう生産組合

(2) 所在地 やまなしけんみなみこまぐんはやかわちょう
山梨県南巨摩郡早川町

(3) 地区の規模 集落の集合体

(4) 組織の性格 機能的な集団等

(5) 代表者の氏名、役職及び住所

氏名 みずの さだお
水野 定夫

役職 組合長

住所 やまなしけんみなみこまぐんはやかわちょうみない
山梨県南巨摩郡早川町薬袋390

2 地区の概要

総人口	農(林、漁)業 就業人口	総世帯数	総土地面積	耕地	採草放牧地	山林
1,740人	10人	854戸	36,986ha	84ha	0ha	35,423ha
農家戸数	専業農家	第 種兼業農家	第 種兼業農家	主業農家	準主業農家	副業的農家
172戸	3戸	2戸	9戸	1戸	1戸	12戸
地域指定状況			農業地域類型区分			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 農業振興地域(昭和47年) ・ 豪雪地帯(昭和38年) ・ 振興山村地域(昭和45年) ・ 過疎地域(昭和51年) ・ 特定農山村地域(平成5年) 			市町村		当該地区	
			山間農業地域		山間農業地域	

注：専業農家・主業農家等は、販売農家の数値。農家戸数は、総農家の数値。

3 むらづくりの背景・動機

早川町の主要作物は従来、水稻、養蚕、養豚、コンニャク、茶であったが、養蚕が衰退し始めた昭和50年代から農業従事者が徐々に減少し、高齢化や過疎化が進むとともに、遊休農地も増大していった。このような状況のなかで、かつての養蚕農家、町民代表者、農業委員等が集まり、南アルプスを代表とする雄大で美しい自然と景観を生かした町のイメージが表現できる特産品の生産につながる農地の活用方法を検討し、高齢農業者が省力的に栽培できる作目として、町内に自生している山ぶどうに目をつけた。

この頃、山梨大学工学部発酵科学研究施設（現・山梨大学ワイン科学研究センター）では、山ぶどうとカベルネ・ソービニオン（フランスボルドー地方を代表するブドウの品種）を交配させて醸造用新品種“ヤマ・ソービニオン”を開発しており、辻一幸早川町長は、山川祥秀助教授（当時）から、“ヤマ・ソービニオン”の試験栽培を持ちかけられた。そこに、町の名士である水野定夫氏（現・南アルプス山ぶどう生産組合長）が居合わせ、この新品種に大きな興味と期待を抱いた。水野氏は、“ヤマ・ソービニオン”がしっかりと根付き、早川町を代表する新たな農作物になると感じていた。

平成7年に「南アルプス山ぶどう生産組合」を設立したが、組合員はこれまでに果樹栽培の経験がなく、山ぶどうの栽培や加工方法の知識を全く持っていなかった。

このため、栽培当初には苦労したが、早川町と南巨摩農業改良普及センター及び、山梨大学から“ヤマ・ソービニオン”の栽培に関する技術指導等の協力を得て、良質な山ぶどうを生産することができるようになった。

現在は、約9割の組合員が高齢者であるが、生き活きと「山ぶどうづくり・生涯現役・町元気」をモットーに若手顔負けの積極的な活動を実施している。

4 むらづくりの内容及び成果等

(1)「山ぶどうの産地化」に向けた取組

平成7年に、南アルプス山ぶどう生産組合を発足。平成8年には、加糖をしなくても発酵できる高い糖度と、耐病性に優れているという品種特性を持つヤマ・ソービニオンの苗木を植え付け、「山ぶどうの産地化」に取り組む。

栽培方法はヨーロッパ等の醸造用ブドウで広く採用されている、手間のかからない簡易的な「垣根仕立て」を採用している。



山ぶどう畑



電気牧柵

【 成果等 】

組合員数、栽培面積、収穫量のいずれも増加。

- ・ 組合員数： 17名（平成7年） 22名（平成15年）
- ・ 栽培面積： 0.1ha（平成8年） 1.2ha（平成15年）
- ・ 収穫量： 0.07t（平成9年） 6.5t（平成15年）

糖度20度、歩留まり90%という良質の山ぶどうが収穫された。
（平成10年）



山ぶどう畑と組合員

(2)特産品の開発：「山ぶどうワイン製品化」に向けた取組

ワインの醸造は勝沼町内のメーカーに委託し、ワインの販売は第3セクターである（財）南アルプスふるさと活性化財団が行っている。山ぶどうワインは、「雄大な南アルプスとワインがもつ濃厚な色合い」を表現して、『白鳳の山葡萄ワイン VIN DE LA VIGNE SAUVAGE(ヴァンドゥラヴィーニュ ヴァージュ) 恋紫(こいむらさき)』と命名され、早川町へのリピーター確保を目的に、町内限定で販売している。

なお、平成16年1月からは、インターネットでの販売も開始した。



山ぶどうワイン

【 成果等 】

平成10年のワイン生産量923本のうち1年間熟成させる500本を残して町内で完売。

ワイン生産量：923本（平成10年） 6,913本（平成15年）

現在では、早川町だけでなく山梨県の特産品となっている。

山ぶどう生産組合員は、「山菜まつり」「紅葉とそばまつり」等のイベントでのワイン販売に参加し、都市住民との交流を図っている。

(3)エコファーマーの取得

豊かな自然に育まれた「山葡萄ワイン恋紫」ならではの特徴をPRするとともに、消費者への安全・安心な作物の提供を目指し、環境保全型農業に取り組んでいる。

草生栽培を導入し、減農薬・減化学肥料栽培に取り組むとともに、農薬は一定量以上を散布しないなど組合員相互の連携体制を整えている。

【 成果等 】

エコファーマー：20名（平成15年）

(4)担い手の確保

担い手の確保の取組として、Uターン農業者を含めた新規栽培者に対し、栽培初心者向けの栽培講習会を開催（年5回）するとともに、山ぶどう生産組合役員による巡回現地指導により、基本技術の習得を支援している。

また、高齢者ができる限り長く元気に農業に取り組むことができるよう検討会を開催し、共同防除や都市農村交流を念頭に置いた作業体験オーナー制を検討している。

【 成果等 】

早川町における近年の農業分野では、山ぶどう生産が最も安定した収入源となっており、これまで年間1～2名の新規栽培者が参入している。

(5)地域内外の団体への波及

山ぶどう生産組合員は早川町内の複数の集落に分散しており、集落を越えたネットワークが生まれている。

また、平成14年度に早川町の町民参加型事業である「あなたのやる気応援事業」に参加し、町内に山ぶどう生産組合の活動を広くアピールしたことにより、町民に強い刺激を与え、他団体がこぞって様々な活動を起こしていく契機となっている。

【 成果等 】

第48回山梨県農業まつりにおいて、むらづくり部門の功績者として表彰を受ける。（平成13年）

他団体へ活動が波及。

- ・西山自然農園（構成員7名、発足時の構成員に山ぶどう生産組合員1名）
フキ、タラなどの山菜や野菜を栽培し、直売を行う。
- ・千須和主導会（構成員7名、うち山ぶどう生産組合員1名）
ブルーベリーを栽培し、ブルーベリー観光農園を目指している。
- ・おばあちゃんたちの会（構成員5名、うち山ぶどう生産組合員1名）
町内の特産品等を販売するとともに、山ぶどうジャム、山ぶどう・ブルーベリー入りのハチミツの開発に取り組む。

【むらづくり推進体制】

